

老人福祉施設のユニバーサルデザイン便所に関する研究

●研究担当：北方建築総合研究所 居住科学部居住科学グループ

●共同研究機関：(福祉法人鹿追恵愛会)

研究の背景・目的

老人福祉施設はユニット化・個室化による入所者の生活の質の向上が求められています。また、介護職員が勤務しやすい環境も必要となります。

本研究では、現在の介護施設における便所での排泄支援の課題に対して、介護負担を軽減するための建築計画や設備機器を検討し、介護職員の動作を効率化した上で、入所者の自立度を高めることにより生活の質を改善し、安心した生活を実現することを目標とします。そのために施設内での様々な入所者に対応する便所の配置計画やブースデザイン的设计手法の構築を目的としています。

研究の概要・成果

この研究では、ユニバーサルデザインの考えによる介護施設の便所の計画として、以下の検討をしました。

- ・トイレ内の介護の中で特に二人介助で狭さに関する課題に対して、動作解析により介護者の使用空間を測定し、必要寸法を明らかにしました。前方及び側方に空間をそれぞれ確保することで二人介助が可能となります。

- ・施設全体における配置計画として、トイレのブースの使用状況を調査し、自力で移動可能だがトイレ内での介助が必要な入所者が多くいました。入所者の身体状況と居室の距離で使用する便所が決まるため、左右の片麻痺に対応する便所のバランスの取れた配置により自力での移動と残存能力を生かした介助が可能になります。

- ・介護職員の体制の課題として、時間帯により便所が混み合っても待機者がいないように排泄状況の管理や職員の連携による介護のために連絡をとりやすい計画や機器の導入などが必要です。

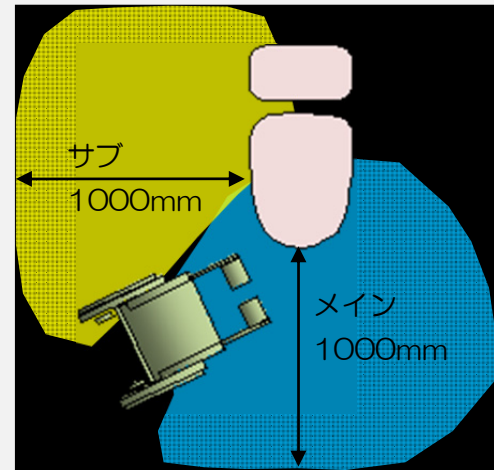


図1：トイレブースでの介助者の動作空間

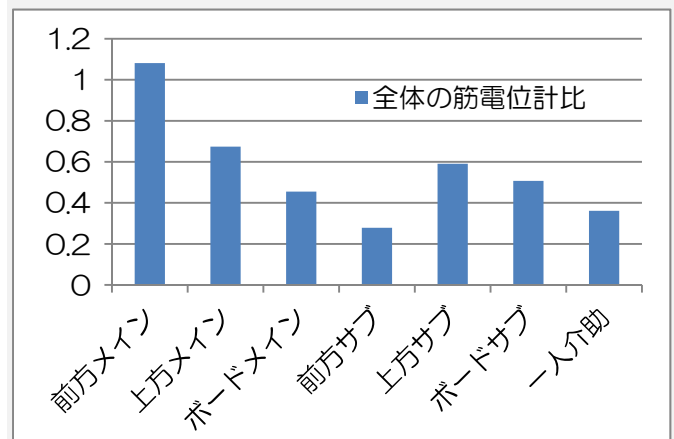


図2：介護方法別の筋電位比較

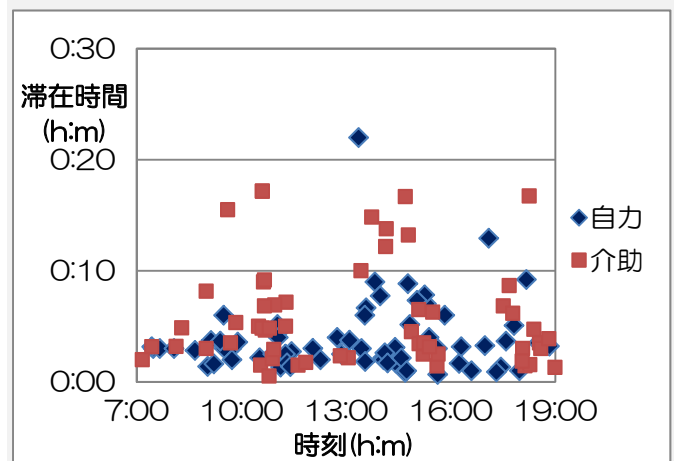


図3：移動介助とトイレの滞在時間の経過

今後の展開

トイレの動作解析実験により明らかになった二人介助に必要な空間など、老人福祉施設のトイレ設計情報を提供していきます。